

秋田県における高校3年生の性意識と性行動（第1報）

羽入雪子¹⁾ 志賀くに子²⁾ 伊藤榮子³⁾

A research on sexual consciousness and behavior of the third year high school students in Akita (First Report)

Setsuko HANYU Kuniko SHIGA Eiko ITOH

要旨：

近年、高校生の性意識および性行動は、開放的・積極的になりつつある。秋田県内の高校3年生男子122人、女子451人を対象に性行動と性意識について調査し、全国的調査の結果と比較した。その結果、以下のような結論が得られた。

- 1) 自分一人の部屋とテレビ、ビデオの両方を保有する者は、男女とも全国調査より高い ($p < 0.01$)。
- 2) 性に関する行動や意識に影響しているものは、男子は「ビデオ」、女子は「友人」が最も多く、男子「ビデオ」は女子に比べて高い ($p < 0.01$)。
- 3) 婚前性交に対する考えは、「愛し合っていれば・お互い納得していればかまわない」が約87～90%を占め、全国調査および東京都の調査結果と同じ傾向にある。
- 4) 性交経験率は、男子が女子よりわずかに上回っているが全国調査と差はない。また、「好奇心から」で「単なる友人」と初めて性交経験をする男子が女子より高い ($p < 0.05$)。
- 5) 性交時「妊娠を気にする」は、男女とも85%以上である。「エイズや性病が気になる」は、男子35%、女子50.7%と予想に反して低く、全国調査結果と比較しても低い ($p < 0.05$)。

キーワード：秋田県高校3年生、性意識、性行動

Summary:

Recent high school students' sexual consciousness and behavior seem active and open. We made researches on sexual consciousness and behavior for 122 boys and 451 girls of the third year high school students in Akita and compared the results with those of the nationwide survey in Japan (JASE).

The results are as follows:

- 1) More students of boys and girls in Akita, have their own rooms with television sets and Videos than the average number of students of JASE.
- 2) The most effective factors which influence on their sexual consciousness and behavior are "Videos" for boys and "friends" for girls. Boys are most affected by "Videos" and the girls by "friends".
- 3) According to their opinions, it is no problem to have sexual activity before their marriage as long as they love each other or they agree. This shows the same tendency as in JASE.
- 4) The rate of sexual experience for boys is a little higher than that for girls. The motive of first sexual intercourse for many boys is curiosity and their curiosity is stronger than the girls. That is to say, they are mere friends each other.
- 5) While more than 85% of boys and girls "worry about getting pregnancy during sexual activity", only 35% of boys and 50.7% of girls "worry about AIDS or sexual disease".

Key words: the third year high school students in Akita, sexual consciousness and behavior

看護学科

1) 講師 2) 助手 3) 教授

緒言：若者の性意識や性行動の調査¹⁾から、性意識や性行動が開放的・積極的となり、低年齢化傾向にあることがわかる。性の日常化・性の価値観の多様化ともいえるこの傾向の背景として、木村ら²⁾は、「めざましい情報産業の発達、女性の社会的進出と地位の向上、さらに男女平等思想による男女の人間関係の変化、個人の自由や権利を尊重・重視する社会的規範の中での女性の自立化と基本的人権の保障」などを指摘している。

日本性教育協会は、1994年8月に「第4回青少年の性行動—わが国の中学生・高校生・大学生に関する調査報告」¹⁾（以下JASEと略す）を発表し、全国平均の指標とされている。秋田市は、この調査地域の対象都市に含まれているが、秋田県のみを対象とした調査報告はほとんどない。そこで、秋田県の高3年生を対象に、性意識・性行動を調査し、全国平均と比較した。今回は、生活環境、性意識・その背景、性交経験について報告する。

1. 調査目的

秋田県における高校3年生の性意識・性行動を把握し、その問題点と今後の課題を検討する。

2. 研究方法

1. 調査対象：秋田県内の高等学校を県北、中央、県南からそれぞれ2校選び、合計6校の高3年生男子122人、女子451人。
2. 調査期間：平成8年10月2日～10月18日
3. 調査方法：財団法人日本性教育協会が実施している「青少年の性行動調査用紙」に一部質問項目を追加したものをを用いての質問紙法
4. 調査実施時の留意事項：プライバシー保護の為、無記名による回答とし、教員が見ることなく直接返送用封筒に回収する方法。
5. 分析方法：男女間で χ^2 検定を用いた。全国調査との比較はJASEの調査報告（1994年）を用いて、男女別の比較。

3. 調査結果

回収数男子122人、女子454人のうち、有効回答数は男子122人、女子451人で有効回答率は99.5%である。

1. 生活環境

1) 兄弟姉妹の有無

1人の兄弟姉妹をもっている者は88.7%で、2人は21.3%、3人は女子のみは0.3%である。

2) 家庭のイメージ

「家庭が楽しい」と答えた者は、男子41.8%、女子59.6%であった（図1）。これに対し「楽しくない」は、男子12.3%、女子6.9%で、女子が低い（ $p < 0.01$ ）。

3) 学校のイメージ

学校のイメージを「楽しくない」と答えた者は、男子19.7%で、女子に比べて高く（ $p < 0.01$ ）（図

2）、JA-SEと比較しても高い（ $p < 0.01$ ）。

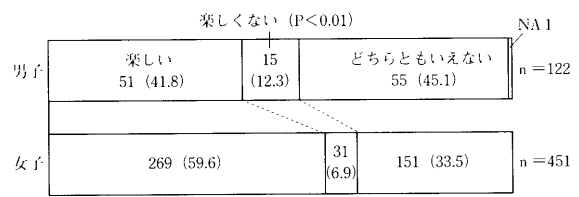


図1. 家庭のイメージ 人 (%)

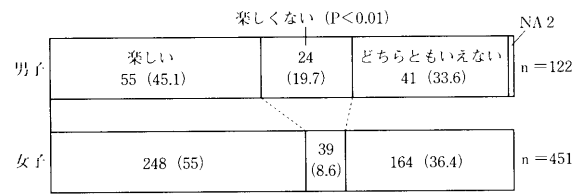


図2. 学校のイメージ 人 (%)

4) 自分一人の部屋の有無

「あなただけの部屋はありますか」には、男子96.7%、女子93.3%が「ある」と答えている。これは、JASEと比較すると秋田県の男子が高い（ $p < 0.01$ ）。

5) 自分専用のテレビ、ビデオの有無

「自分専用のテレビまたはビデオがありますか」には、男子35.2%、女子14.2%が「両方ある」と答えており、男子が女子に比べて高く（ $p < 0.01$ ）（図3）、JASEと比較しても秋田県の男女生徒の方が、テレビ、ビデオの両方を保有する者が多い（ $p < 0.01$ ）。

6) 何でも話せる同性の友人の有無

「何でも話せる同性の友人はいますか」には、女子が88.2%で男子80.3%よりも多く（ $p < 0.05$ ）（図4）、JASEと比較しても男女とも同性の友人をもつ者が多い（ $p < 0.05$ ）。

7) 特に仲の良い異性の友人の有無

「特に仲のよい異性の友人はいますか」には、男子45.9%、女子39%が「いる」と答えている。

また、秋田県の男子で異性の友人をもたない者は、JASEと比較して有意差を示す（ $p < 0.05$ ）。

男子	両方あり (P<0.01) 43 (35.2)	テレビあり (P<0.01) 32 (29.5)	ない (P<0.01) 41 (33.6)	NA 2 n=122
女子	64 (14.2)	77 (17.1)	306 (67.8)	NA 4 n=451

図3. 自分専用のテレビ・ビデオの有無 人 (%)

男子	いる (P<0.05) 98 (80.3)	いない 2 (17.2)	NA 3 n=122
女子	398 (88.2)	51 (11.3)	NA 2 n=451

図4. 何でも話せる同性の友人の有無 人 (%)

2. 性意識とその背景

1) 学校で性教育を受けたかどうか

「学校で性教育を受けたことがありますか」には「受けた」が男子78.7%、女子88.7%で、男女とも大半の生徒が性教育を受けている。その中で性教育が「役に立った」は、男子45.8%、女子44.3%と半分に満たない。

2) 性に関わることで自分に影響を与えているもの「性に関わるあなたの行動や意識にこれまでどんなものが影響していますか」には、「友人」が最も多く、男子55.7%、女子59%であった。次いで男子では、「ビデオ」51.6%、「漫画やコミックス」42.6%であり、女子では「新聞や雑誌の記事」39.2%、「テレビやラジオ」35.5%の順であった。「教師」「親」は、男子それぞれ4.1%、0%、女子2%、5.1%と少なかった（表1）。「その中で最も影響を与えたもの」には、男子は「ビデオ」が、女子では「友人」が最も多かった。（複数回答）

表1. 影響を与えているもの. 人 (%) (複数回答)

	男子 n=122人	女子 n=451人	
親	0 (0)	23 (5.1)	*
友人	68 (55.7)	266 (59.0)	
教師	5 (4.1)	9 (2.0)	
学校の授業	6 (4.9)	46 (10.2)	
新聞や雑誌の記事	31 (25.4)	177 (39.2)	**
マンガ・コミックス	52 (42.6)	142 (31.5)	*
その他の本	39 (32.0)	24 (5.3)	**
テレビ・ラジオ	35 (28.7)	160 (35.5)	
ビデオ	63 (51.6)	32 (7.1)	**
その他	1 (0.8)	4 (0.9)	

* P<0.05

** P<0.01

3) 「性」「セックス」という言葉のイメージ

「『性』とか『セックス』という言葉についてどのようなイメージをもっていますか」では、性のイメージについて、明るさ、楽しさ、きれいさ、良さ、重さ、恥ずかしさ、の6つの項目を質問した。その結果、女子に比べて男子が、「明るい」、「楽しい」、「きれい」、「良い」と肯定的なイメージをもつものが多い（ $p < 0.01$ ）（表2）。また、JASEと比較して、秋田県の女子は、性を「悪い」とイメージしている者が多い（ $p < 0.01$ ）。

表2. 性のイメージ. 人 (%)

	男子 n=122人	女子 n=451人	
明るい	32 (26.2)	58 (12.9)	**
暗い	7 (5.7)	24 (5.3)	
どちらともいえない	74 (60.7)	344 (76.3)	
NA	9 (7.4)	25 (5.5)	**
楽しい	57 (46.7)	83 (18.4)	**
楽しくない	4 (3.3)	23 (5.1)	
どちらともいえない	51 (41.8)	319 (70.7)	
NA	10 (8.2)	26 (5.8)	
きれい	26 (21.3)	35 (7.7)	**
きたない	17 (13.9)	81 (18.0)	
どちらともいえない	68 (55.8)	311 (69.0)	
NA	11 (9.0)	24 (5.3)	**
軽い	53 (43.4)	91 (20.2)	**
重い	8 (6.6)	31 (6.9)	
どちらともいえない	51 (41.8)	202 (44.8)	
NA	10 (8.2)	127 (28.1)	
良い	20 (16.4)	47 (10.4)	
悪い	35 (28.7)	145 (32.2)	
どちらともいえない	58 (47.5)	232 (51.4)	
NA	9 (7.4)	27 (6.0)	
恥ずかしい	28 (23.0)	199 (44.1)	
恥ずかしくない	35 (28.7)	53 (11.8)	
どちらともいえない	50 (40.9)	179 (39.7)	
NA	9 (7.4)	20 (4.4)	

** P<0.01

4) 婚前性交について

「婚前性交についてあなたの考えはどれに近いですか」には、「どんな場合でもいけない」は、男子2.5%、女子1.1%で、秋田県の女子はJASEと比較して低い（ $p < 0.01$ ）。「愛し合っていればかまわない」は、男子45.9%、女子45.9%、「お互い納得していればかまわない」は、男子40.1%、女子43.2%で、これらはJASEと比較して差異はなかった。「結婚が前提ならばよい」は男子3.3%、女子4%で差はないが、JASEと比較して秋田県の女子は低い（ $p < 0.05$ ）（表3）。

5) 性に関して悩んだ体験の有無

「今まで性に関することで悩んだことがありますか」には、男子40.2%、女子42.8%が、悩んだことが「ある」と答えている。「どう対処したか」

には、男子は「自分一人で考えた」が27.1%と最も多いが、女子では18%と男子に比べて低い ($p < 0.05$)。女子は「友人に相談した」18.2%、「親に相談した」12.6%が男子のそれに比べて高い ($p < 0.01$) (表4)。

6) 性に関して知りたいこと

「今、性に関して知りたいことは何ですか」には、男子は「異性との交際の仕方について」21.3%、「愛とは何か」19.7%、「性病の知識やエイズについて」13.9%の順で高く、女子は「男性と女性の心理や行動の違い」21.7%、「異性との交際の仕方について」18.4%、「性病の知識やエイズについて」14.4%の順で高い (表5)。

表3. 婚前性交. 人 (%)

	男子 n=122人	女子 n=451人
どんな場合でもいけない	3 (2.5)	5 (1.1)
結婚が前提ならば良い	4 (3.3)	18 (4.0)
愛し合っていればかまわない	56 (45.9)	207 (45.9)
お互い納得していればかまわない	49 (40.1)	195 (43.2)
わからない	8 (6.6)	26 (5.8)
NA	0 (0)	0 (0)

表4. どう対処したか. 人 (%) (複数回答)

	男子 n=122人	女子 n=451人	
自分一人で考えた	33 (27.1)	81 (18.0)	*
友人に相談した	7 (5.7)	82 (18.2)	**
親に相談した	1 (0.8)	57 (12.6)	**
教師に相談した	0 (0)	3 (0.7)	
養護教諭に相談した	0 (0)	10 (2.2)	
電話・公共相談場所	0 (0)	0 (0)	
病院を受診	2 (1.6)	11 (2.4)	
その他	2 (1.6)	6 (1.3)	
悩んだことがない	73 (59.9)	258 (57.2)	

* $P < 0.05$

** $P < 0.01$

表5. 性に関して知りたいこと. 人 (%) (複数回答)

	男子 n=122人	女子 n=451人	
異性との交際方	26 (21.3)	83 (18.4)	
愛とは何か	24 (19.7)	50 (11.1)	*
性交について	15 (12.3)	44 (9.8)	
避妊の方法	5 (4.1)	21 (4.7)	
性病の知識やエイズについて	17 (13.9)	65 (14.4)	
性欲の処理の仕方	8 (6.6)	6 (1.3)	**
自分と異性の体の構造や働きについて	3 (2.5)	7 (1.6)	**
自分の体が完全かどうか	7 (5.7)	40 (8.9)	
男性と女性の心理や行動の違い	14 (11.5)	98 (21.7)	*
男性と女性の役割について	3 (2.5)	6 (1.3)	
性は人生にどういう意味を持つか	5 (4.1)	20 (4.4)	
人間の性は他のほ乳類と比べてどう違うか	4 (3.3)	5 (1.1)	
その他	3 (2.5)	4 (0.9)	

* $P < 0.05$

** $P < 0.01$

3. 性交経験

性交経験者は、男子は122人のうち20人 (16.4%)、女子は451人のうち71人 (15.7%) で、わずかではあるが男子の性交経験率が女子を上回っている。

1) 初めての性交経験

性交経験者で初めての性交経験 (以下初経験と略す) の年齢は、男女とも17歳が最も多く、女子は42人 (59.2%) の者が16~17歳で初経験をしている (表6)。JASEとの比較では男子16歳での初経験者2人 (10%) が有意に少ない ($p < 0.01$)。

初経験の相手は、「恋人」が男子13人 (65%)、女子56人 (78.9%) と最も多く、「単なる友人」の男子は30%でありJASEと比較しても高い ($p < 0.05$)。

初経験の相手の年齢は、「同じ年」男子13人 (65%)、女子41人 (57.8%) と最も多く、次に「年上」男子5人 (25%)、女子24人 (33.8%)、「年下」男子1人 (5%)、女子2人 (2.8%) の順であった。

「どちらが要求しましたか」には、「どちらともいえない」男子13人 (65%)、女子30人 (42.3%) と最も多く、「自分から誘う」は、男子6人 (30%) で高く ($p < 0.01$) JASEと同じ傾向を示す。

初経験の動機は、女子は「好きだから」42人 (59.1%) 「愛していたから」29人 (40.9%) であった。男子は「好奇心から」が12人 (60%) と最も多く女子より高い ($p < 0.01$) (表7)。

初経験の場所は、男子が「自分の家」9人 (45%) で最も多く、女子より高い ($p < 0.01$)。女子は、「相手の家」が45人 (63.4%) と最も多くJASEに比べて高く ($p < 0.05$)、女子の「ホテル・旅館・モーテルなど」は5人 (7%) でJASEに比べ低い ($p < 0.01$)。

初経験を「どのように感じたか」は、「良かった」が男子12人 (60%)、女子37人 (52.1%) と最も多く、「どちらともいえない」が男子6人 (30%)、女子28人 (39.5%)、「良くなかった」が男子2人 (10%)、女子4人 (5.6%) であった。

表6. 初めて性交経験した年齢. 人 (%)

	男子 n=20人	女子 n=71人
10歳以下	1 (5.0)	1 (1.4)
11	0 (0)	0 (0)
12	0 (0)	0 (0)
13	4 (20.0)	1 (1.4)
14	1 (5.0)	2 (2.8)
15	1 (5.0)	12 (16.9)
16	2 (10.0)	19
17	5 (25.0)	23
18	3 (15.0)	6 (8.5)
NA	3 (15.0)	7 (9.8)

表7. 動機・きっかけ. 人 (%) (複数回答)

	男子 n=20人	女子 n=71人
愛していたから	6 (30.0)	29 (40.9)
好きだったから	11 (55.0)	42 (59.1)
好奇心から	12 (60.0)	10 (14.1)
遊び半分で	3 (15.0)	5 (7.0)
酒など飲んで	2 (10.0)	1 (1.4)
シンナー遊びをして	1 (5.0)	0 (0)
相手をつなぎ止めたくて	0 (0)	8 (11.3)
無理矢理	1 (5.0)	4 (5.6)
友人に遅れたくなくて	1 (5.0)	0 (0)
お金がほしくて	0 (0)	1 (1.4)
ただ何となく	6 (30.0)	7 (9.9)
その他	0 (0)	1 (1.4)
NA	0 (0)	1 (1.4)

* P<0.05
** P<0.01

2) 避妊について

初経験時に避妊を実行した者は男子15人 (75%)、女子53人 (74.7%)、JASEは男子64.1%、女子67.1%で、秋田県の高校3年生の方が上回っているが有意差はない。

「避妊の方法」については、男子18人 (90%)、女子61人 (85.9%) がコンドームであった。「避妊はどちらが言い出すか」に対し、「両方」が男子9人 (45%)、女子39人 (54.9%) と最も多く、ついで男子は「相手から」4人 (20%)、「自分から」3人 (15%)、女子は「自分から」9人 (12.7%)、「相手から」7人 (9.9%) の順であった。

3) 性交時気になること

性交経験のある者の中で、「性交時、妊娠、エイズ・性病が気になりますか」には、「妊娠が気になる」が、男子17人 (85%)、女子63人 (88.7%) に対し、「エイズや性病が気になる」が、男子7人 (35%)、女子36人 (50.7%) と低く、JASEとの比較においても低い (男子 p<0.05、女子 p<0.01) (図5)。

4) 性交経験の相手の人数

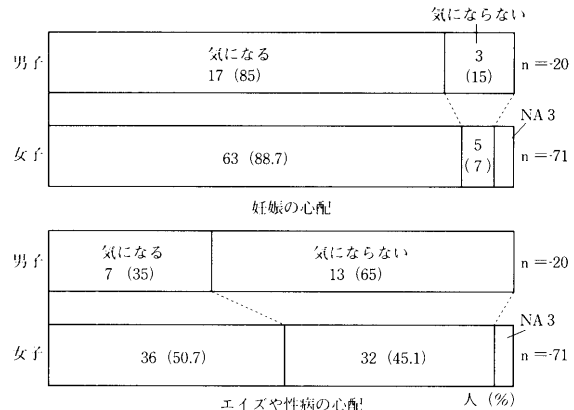


図5. 妊娠やエイズ・性病の心配

「今まで何人の人と性交経験があるか」には、「1人」が男子6人 (30%)、女子41人 (57.8%) と最も多い。「3人以上」が男子5人 (30%)、女子13人 (14%) であり、JASEとの比較では有意差がない (表8)。

表8. 今までに何人の人と性交経験があるか. 人 (%)

	男子 n=20人	女子 n=71人
1人	6 (30.0)	41 (57.8)
2人	4 (20.0)	18 (25.4)
3人	4 (20.0)	3 (4.2)
4人	1 (5.0)	3 (4.2)
5人	0 (0)	0 (0)
6人以上	5 (25.0)	3 (4.2)
NA	0 (0)	2 (2.8)

* P<0.05

IV 考察

1. 生活環境

平成7年度国民生活白書³⁾による年齢45~49歳の出生児分布をみると家族内の子供の数は減少し、2人兄弟の割合が1962年頃から増加、1992年では約58%を占めている。本調査においても2人兄弟は最も多く、男子18.0%女子22.2%であった。

家庭のイメージは、家庭が彼らの心の支えの場として重要な役割を果たしているかをみる一つの指標である。それが「楽しくない」ものであるならば、心の支えを外の世界に求めることになる。1992年JASE「青少年とマンガ・コミックスに関する調査」⁴⁾では、家庭が「楽しくない」と答えた者は、明らかに高い頻度で性行動経験があり、婚前性交に対する意識も肯定的であると報告している。本調査で、家庭が「楽しくない」と答えた者は男子が女子より高率であったが、家庭が「楽しくない」者と性行動経験との相関を検証していないため、断定的結論は述べられない。

本調査対象者の生活環境の特徴的なこととして、個室及び専用ビデオの保有があげられる。自分一人の部屋を保有する者は約93～97%であり、しかも自分専用のテレビ・ビデオの両方を保有する者が男女とも全国レベルより高率であった。このことは、家族に知られずに放送内容を選択できる環境下にあるといえる。しかも、「性に関する行動や意識に影響している」ものの中で(結果2-2)、男子の52.1%が「ビデオ」と答えており、ビデオが男子生徒に与える影響が大きいことがわかった。VTRの普及やレンタルビデオ店の出現に加え、書店に行きさえすればどの年代を対象とした出版物でも自由に手に入る現状に対し、松本⁵⁾は次のように指摘している。「現在、世界中で性が最も自由な国は日本ではないか。その自由化は『人のセクシュアリティ』とは逆の方向に進んでいる。若者の性情報源は、口コミの他にマスコミの中でのコミック・マンガなどの週刊誌であり、これらマスコミの情報から多くの性知識を得ている。しかし、その知識はきわめて不完全・不正確である」と。また、若者の間で一般化されているアダルトビデオは、ともすれば性交のマニュアル的役割を担うことになりかねない。家庭で個室を持ち、一人でビデオを自由に見ることができ、また、性描写の露骨なマンガやコミックなどが氾濫している環境におかれている彼らが、正しい知識を識別できる能力を身につける事が必須であることは言うまでもない。

2. 性意識とその背景

学校での性教育は、男子78.7%女子88.7%の生徒が受けていたが、「役に立つ」と感じた者は半分以下であった。受けた性教育の内容や、どういう場面で役に立ったのかは調査していないが、この結果は少なくとも学校で教えている内容が彼らのニーズとずれていることを意味している。「今、性に関して知りたいこと」から彼らのニーズを探ってみると、男女とも①男女交際の仕方、②男性と女性の心理や行動の違い、と、異性に関することが多い。異性を知ることは自分を知ることであり、体・性のメカニズムや心理・行動の違いを通じて「真の自分とか自分固有の生き方・考え方」、つまり自己同一性を確立していくことは、思春期の大切な発達課題であると松本⁶⁾は述べている。したがって正しい知識のもとに自己の価値観や性を正しくとらえさせ、ときめく心、相手を認め、思いやる心を大切にしながら、「責任ある行動と

は何か」を考える機会が必要である。

婚前性交に対する考えは、伝統的・保守的ともいえる消極的婚前性交観は低く、「愛し合っているならば・お互い納得していればかまわない」が約87～90%を占めており、JASEと都性研「1996年、児童・生徒の性意識・性行動に関する調査報告」⁸⁾の調査結果と同じ傾向であった。

性・セックスのイメージについては、女子より男子の方が肯定的なイメージをもつ者が多い。これは、女子がセックスにより妊娠を引き受ける側であるため、否定的イメージを多くもつと考える。また、性に関して悩んだ体験がある者の対処方法にも男女差があり、男子は「1人で考えた」が、女子は「友人・親に相談した」が多かった。

3. 性交経験

性交経験者は、デートやキス経験と異なり諸外国における若者の性行動と同質に論ずることができる。アラン・グッドマッカー研究所の1995年7月データ「性とアメリカのティーンエイジャー」によれば、アメリカの若者のうち性交経験をもつ者は、12歳9%、15歳30%、16歳42%、17歳59%、18歳71%、19歳で82%と報告され、初めて性交経験をする中央値は、男子で16.6歳、女子で17.4歳であった⁷⁾。

日本の状況は、4年毎に実施されているJASEの調査で概観することができる。中でも年齢別経験率は、中学生期から高校生前期までは男女ともに10%に満たない(図7)。しかし、高校生後半期に入ると男女共に性交経験率が上昇し、特に17歳以降の女子の性交経験率が大きく増加する傾向にある。本調査の性交経験率とJASEとの比較では有意差はなく、秋田県の高校生の性交経験率は全国レベルと同じ傾向である。しかし都性研では、東京都の高校3年生の性交経験率は、男子28.6%、女子34%であり、秋田県に比べ約2倍であることがわかった。

初めての性交経験の結果からは、経験年齢は「17歳」、相手は「同じ年」、「どちらともなく要求」し、場所は「男子の家」が最も多かった。特徴的なことは、男子の「好奇心」という動機と、「単なる友達」という相手が有意に高いということであり、このことから初めての性交経験では、男子が主導的で女子より衝動的である側面が伺われる。

16～18歳の性交経験率は、今後上昇傾向をたどることは過去のデータから予測できるが、重要なことは、望まない妊娠を避け、性行為感染症(以

下STDと略す)を避けることである。本調査では、「性交時妊娠が気になる」は、男子85%、女子88.7%であり、「気にならない」は、男子15%、女子7%と男子が女子の2倍であった。「性交時エイズや性病が気になる」は、男子35%女子50.7%と低く、JASEとの比較においても男女とも有意に低かった。妊娠を気にする事は高校3年生であることから当然と思われるが、避妊の方法のほとんどがコンドームであり、安価で入手しやすいが、男性主導でしかも正確に使用しなければ、避妊の効果は極端に低くなる方法を選択している。日本家族計画協会は「思春期教室マニュアル」9)で、避妊について次のように述べている。「使用頻度の高いコンドームは、男性主導型の避妊方法で、女性自身で自分の体を守ることができない。避妊の大原則は、女性ができる避妊法を主体として、男性避妊は補助手段と考えるようにすることである」と。避妊教育は、how toレベルではなく、生命を生み出す生殖性・喜びを求める快楽性・男女の人間関係を深める連帯性の三つの側面を含む内容でなければならない。学校教育のみならず、地域社会においても情報の提供や相談を引き受ける場を設置し、その存在を若者へアピールしていく必要がある。

最近若者の間でSTDが増加していることは注目されている。札幌のSTD研究会の報告10)によると、淋菌感染やクラミジア感染が10代で頻度が高く、女性では15~16人に一人がクラミジアに感染しており増加傾向にある。また、宮本ら11)の報告では、クラミジア抗原陽性者は15~19歳が最も高く16.3%、次いで20~24歳11%と若者に高率であり、未婚者は既婚者のほぼ2倍の感染率であるという。「クラミジアの後にエイズあり」といわれるように、今後同じ経路で感染するエイズ感染の増加も予測される。性交経験の有無に関わらず、正しい知識を身につけ避妊のみならず、STDを予防できる判断力・実行力をもてるように指導・援助していく体制づくりが必要であると考える。

V 結論

今回、秋田県の高3年生の性意識・性行動が、生活環境や性意識とその背景との関わりから以下のことが明らかになった。

1) 自分一人の部屋とテレビ、ビデオの両方を保有している者は、男女とも全国調査結果より高

い。これらのことは、本県の高3年生は男女共、自室の中で大人の干渉を受けずに性情報を得るのに比較的自覚をもっていることを表す。

2) そのため性に関する行動や意識に影響しているものは、男子は「ビデオ」、女子は「友人」が最も多いと思われる。男子は女子よりも「ビデオ」が性行動や性意識に影響を与えている。

3) 婚前性交に対する考えは、「愛し合っていれば・お互い納得していればかまわない」が約87~90%を占め、JASEと都性研の調査結果と同じ傾向にあるといえる。

4) 性交経験率は、男子が女子よりわずかに上回っているが全国レベルと差はなく、「好奇心から」や、「単なる友人」と初めて性交経験をする男子が女子より多い。

5) 性交時「妊娠を気にする」は、男女とも85%以上で全国調査と同じ傾向である。しかし、「エイズや性病が気になる」は、男子35%、女子50.7%と低く、全国調査結果よりも低い。

これらのことから、本県の高3年生は住環境が比較的恵まれており、加えて家人の干渉を遮断できる個室の中で自由に性情報を得ることがより可能であることを示し、従って好奇心を満たす条件がそろいやすいと考えることが出来る。また、性交時の「エイズ・性病」に対する気配りの低さ(全国比)は、自分たちは大丈夫だと思っており、危機感が少なく、先ず「妊娠さえ」しなければよいと思っている結果とも受け取れる。

今後の課題は、本県の実態に照らして家庭教育と公教育がこの問題について何が出来るかを再認識して、自発的に性に関する「正しい判断」のもとに「望ましい行動」ができるように、性教育を推進する方略を考察・実施する必要があるといえよう。

本調査に御協力いただきました秋田県の高3年生に感謝致します。

文献

1. 青少年の性行動—わが国の中学生・高校生・大学生に関する調査報告—,財団法人日本性教育協会編,財団法人日本性教育協会発行,1994.
2. 木村龍雄,皆川興栄,園山和夫:アダルトビデオ視聴経験の有無と性意識・性行動との関連に関する研究(第1報),思春期学,14(3),p.309,1996.

3. 国民生活白書,総務庁青少年対策本部編,大蔵省印刷局発行,1995.
4. 青少年とマンガ、コミックスに関する調査報告書,財団法人日本性教育協会編,財団法人日本性教育協会発行,1992.
5. 松本清一:マスコミの性情報と性教育,学校保健研究1,26(11),p 502~506,1984.
6. 松本清一:助産婦の担う道、社団法人日本家族計画協会、p 125、1996.
7. 島崎継雄:高校生期後半から上昇する性交経験率,現代性教育月報,12(12),p 12~15,1994.
8. 児童・生徒の性,東京都幼・小・中・高・心障性教育研究会編,学校図書,1996.
9. 思春期教室マニュアル,社団法人日本家族計画協会編,p 37,1993.
10. 広瀬崇興:若年層のSTD(性感染症)をめぐって,第10回思春期学会シンポジウム「若年層の性行動をめぐって」,東京,1991.
11. 宮本由美子,村口喜代,大川美恵子,山岸律子:思春期キーワード:秋田県高校3年生、性意識、性行動女子のクラミジア感染症,思春期学,14(3),p 330,1996.